

風化する遺構について思う ver 2

プロローグ

本題の風化は五頭山にまつわる水力発電の建設と風化して残された遺構です。

阿賀野市安田 IC から五頭山塊を右手に見ながら新発田市へ向かう 290 号線畑江地区を右折して五頭連峰少年の家を左手に真直ぐ進むと魚止めの滝駐車場に行き着く。

魚止滝から大荒川へ降り丸太橋（※ 水害で流出して通行止めになって久しいが、復旧されたかは、要確認）を渡り松平登山道を行くとやがて分岐にあたる。右の大荒川筋に行く、行き交う人もなく静かな佇まいの中水の流れる音が大きくなり道が開けたなと思ったらそこがエンテイだった。

エンテイ頂部は花崗岩の石積みでかなりの年代ものである。気になって調べることにした。

郷土資料館（廃校出湯小学校⇒平成 28 年閉館）蔵書「前田伊勢松著 笹神風土記」を読み、東北電力㈱用地課から「東北地方電気事業史」を見せて頂いた、また、図解新潟歴史散歩……豊栄市北蒲原 1（新潟日報事業社発行）に詳細に記載されている。

発電所エンテイということがわかった、明治時代末期に県都へ送電したという。赤安山登山道中腹に導水管布設の跡があり、その跡を辿って行くと方形の貯水槽跡がある、ここから大荒川山の神下手に導水し発電したという。

五頭連峰の概要紹介

五頭の概要確認のため再掲する。

五頭山塊は、新潟市からは背後の国立公園飯豊連峰の前衛連峰として見る。南北に走る五頭連峰（真木山、金鉢山、松平山、五頭山、菱ヶ岳）を主稜として東西に裾を引く側稜からなり、北端は剣竜峽を越えて真木山、荒城山と徐々に高度を落として主要地方道新発田津川線で平野に落ち込む、南端は西山から野須張峰、宝珠山、そして阿賀野川へと下る。主稜西側は山葵山、赤安山、扇山、北山の側稜と大日原の広大な原野があり、東側は杉峰、天平尾根、鈴峯の側稜から東蒲原の高原地帯へつながって大きな塊を形成する。山塊西側の主体は花崗岩から形成され火山岩類によって覆われる。

河川は、荒川川、本田川、折井山、大荒川、安野川などがあり、この中で「荒」という字からイメージされる暴れ川が印象的です。そしてこれら河川の上流は山肌に張り巡らして小溪谷となっている。

大荒川は松平山および五頭山に源を発し、この河川と国道 290 号線を跨ぐ辺り一帯は賽の河原と呼ばれる土石流跡地、昭和 41 年 42 年の連年の大水害が発生し、この付近に災害復興記念碑も建立されている。

さて、先程紹介した調査資料の一部を表示してみる。

1 笹神風土記 前田伊勢松著

電気山の項に以下の説明がある。

「… この発電所は大荒川の流水で水力発電を起こそうと、中野平弥、市嶋徳次郎、中野四郎太、佐藤伊左衛門、佐藤友右衛門其他が発起人となって新潟水電株式会社を設立したことに始まる。会社設立明治四十年十一月であるが、これより先当時すでに新潟電灯株式会社を創立していた中野平野という人が出湯・村杉温泉に遊び、大荒川が水力発電に有望であることに目を付けて…大荒川を調査させていた。……」「電力供給地は水原町、亀田町、新発田市、新潟市それに地元の出湯・村杉温泉であった」とある。明治末期に壮大な計画がなされていた。

また、白黒で見づらいが上流発電所（四四三キロワット）建物、鉄管が映り込む白黒写真が掲載されている。

2 東北地方電気事業史

昭和 35 年発行の東北地方電気事業史によれば新潟水電株式会社の項に「当社は明治 40 年 5 月 22 日に、新潟市他 5 町、9 ヶ村を供給区域とし、中野平弥氏他 8 名の発起人により大荒川水を利用し、大荒川上流発電所 443KW の発電をもって電灯、電力の供給を目的として事業経営の認可を受けた。明治 41 年 11 月新潟電灯会社の事業及び未開業の新発田電灯所の事業をも譲受電灯供給を行った（明治 45 年 5 月 15 日）が、水力発電所と送電線路の建設工事完了により、新潟市及び沼垂町の全部水力に切換え火力発電所は廃止して予備とした。……」とあり、明治末期当

時の技術では大変な事業が企画されていた。

3 図解新潟歴史散歩（豊栄・北蒲原 I）

県都へ電灯を 大荒川発電所

上記 1、2 と同内容の紹介が載っている

「… 大荒川発電所は出力四四三キロワットの発電で、県都新潟へ初めて電灯を灯すことを目的とした。

…明治三十六年から測量に着手、四十一年工事施工、四十二年五月十五日発電を開始した。」とあり、「…資材を人力で運び揚げ … 初めて索道技術の導入…」とあるように、極めて厳しい条件で施工された。

昭和六年（1931 年）営業を廃止したとある。規模の矮小化は時勢に追いつかなかったとある。

また、記録写真として、密林に覆われた「五百尺」の水槽、笹神村郷土資料館蔵の（山倉船場の発電機輸送風景、発電機陸揚げのようす山倉船場全景 写真）が掲載されている。

4 筆者が現地踏査し確認した写真

エンテイは貯水池堰堤で花崗岩切石堰堤である。



綺麗に石組みされたエンテイ頂部 June 07 1992

方形石造貯水槽



方形石造貯水槽跡 Apr 25 1993

あとがき

本文は 1999 年 5 月日本土木工業協会が発行する「建設業界⑤」の「研究余滴 野帳余白」に寄稿した【風化する遺構について思う】の投稿文の中で「遺構」の部分を取り ver 2 として編集しなおしたものです。

随分古い投稿文ですが、公園周囲の樹木・風景の項に記録として残します。